

# 令和2年度 学校評価 総括評価表

東みよし町立加茂小学校

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価（達成度と実施状況）	総合評価		
確かな学力の育成	①東みよし町スタンダード児童用「学びの手引き」、教師用「確かな学力の育成に向けて」を活用し学力の向上に努める。	①学校評価アンケートで、「授業はよくわかる」の割合を、下学年、上学年ともに60%以上が「そう思う」を目指す。単元終了後の通常テスト（業者または徳島県版）において、正答率80%を目指す。	①学校評価アンケートで、「授業はよくわかる」の割合は、下学年49%、上学年は38%であった。学びの手引きについて機会を捉えて徹底を図っている。1月に実施したCDTテスト（国語・算数）では、学年に差はあるものの70%から80%の正答率であった。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により年間計画が崩れ、学習の進度が早くなったこともあり、時間数はクリアしているものの子どもたちへのサポートが必要だ。</li> <li>・学校で学習したことをより確かなものにするためには、家庭学習の充実が不可欠である。家庭と連携し、宿題の量や内容について十分共通理解を図ってほしい。また、自主学習についてもしっかりと指導してほしい。</li> <li>・学習面も大切だが知徳体のバランスのとれた子どもの育成を目指してほしい。</li> <li>・コロナ禍の中で身につけた力もあるので結果の数値のみにこだわることなく次年度に生かしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律が緩んでしまうことがよくあったため、校内の学力向上委員会の活用し定期的な学習規律調査を行う。SWPBSの手法を用いて賞賛し、定着させる。</li> <li>・学習中においてもSWPBSの手法を用い、学力向上に繋げる。</li> <li>・家庭学習や自主学習について校内で検討し、共通理解の下指導する。</li> <li>・校内研修で特に算数の授業づくりについて研修を行う。</li> </ul>
	②主体的・対話的で深い学びを目指した授業を展開する。	②授業の中で書く場面を設定し、自分の考えをまとめ表現する力を伸ばす。それをもとに、学び合いの機会を設ける。	②感染予防を行いながら、グループ活動など学び合いの機会を設定した。自分の考えを表現するためにノートの手書き方を工夫させ、日記指導にも積極的に取り組んだ。			
	③自ら課題を見つけたり、学習方法を考えたりして、主体的に学習に取り組む態度を育成する。	③家庭学習に関する指導を行い、自ら進んで家庭学習（宿題＋自主勉強）をして学んでいく習慣づくりを行う。 月に1回、教科ノートや自主学習ノートの中から、『きらきらノート賞』の掲示、表彰を行う。	③家庭学習について、教職員間で話し合いを持ち、出す量や内容について共通理解を図った。発達段階に応じた自主勉強の仕方を各学年で工夫している。 「きらきらノート賞」は続けており、子どもたちの励みとなっている。	B		

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価（達成度と実施状況）	総合評価		
自尊感情、 コミュニケーション力の育成	①自尊感情を高め、自分に自信を持った子どもに育てる。	①学校評価アンケートで、自尊感情に関する項目で「そう思う」児童の割合を、60%以上にする。	①「自分にはよいところがある」で「そう思う」と答えた児童は49%となった。「だいたいそう思う」を含めると75%となる。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊感情の育成には課題は残るが、加茂小のKSPや人権教育により一定の効果は見られる。</li> <li>・子どもたちを大切にするという意味では誉めることが重要である。が、学校だけではなく、学校でも同じような誉めることに取り組むべきである。</li> <li>・普段の学校生活の取組で人権意識の涵養を目指していただきたい。</li> <li>・子ども間のトラブルの早期発見や対応に努めていることを続けていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よいところ」という概念を唯一無二のオンリーワンと捉えさせ、自分らしさを良さと捉えられる働きかけを行っている。</li> <li>・学校での人権教育の取組をしっかりと家庭へ啓発する。KSPの取組についても家庭へフィードバックし、家庭でも誉めてもらえ機会を作る。</li> </ul>
	②気持ちのよいあいさつや返事を交わし、お互いの存在を認め合う。	②学校評価アンケートで、「すてきなあいさつをする」「元気な返事をする」の割合を70%と65%以上にする。	②「自分からすてきなあいさつをする」は55%「元気な声で返事をする」は46%となった。日頃の活動ではあいさつ運動は盛り上がり、子どもたちなりに成果を感じている			
	③認め合い、励まし合うあたたかい学級集団、学校づくりを進める。	③児童用アンケートの「あたたかことば」に関する項目で「そう思う」の割合を50%以上にする。学校評価保護者アンケートで望ましい人間関係の育成に関する項目の「そう思う」の割合を50%以上に増やす。	③「あたたかことばを使ってあたたかい行動がとれている」は36%となっている。保護者アンケートの「望ましい人間関係の育成」に関する項目では「そう思う」の割合は33%となっている。	C		
特別支援教育の充実	①学校全体でポジティブ行動支援に取り組む。	①子どもたちの望ましい行動、期待される行動についての共通理解を図り、かもっ子スマイルプロジェクトに取り組む。	①全体での共通理解を図りながら学期ごとにプロジェクトに取り組んだ。高学年中心の活動では子どもたちは積極的に取り組み、望ましい行動がとれるようになってきている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内での共通理解の下でのKSPの取組は継続的な指導により子どももの成長として表れている。</li> <li>・教員間での共通理解がきちんとなされていることがよい結果に繋がっており、自己肯定感にも繋がっていくだろう。</li> <li>・支援が必要な子がた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SWPBSについては次年度も継続して行う。マナー化が起らないように形態や方策を変えていきたい。</li> <li>・落ち着いている学級がある一方、ポジティブ行動支援が有効</li> </ul>
	②学力向上に向けてのポジティブ支援の研究を進める。	②大学教授のコンサルテーションを得て、基礎的学習の活用力をアップさせる。	②特別支援教育相談課の支援のもと、コンサルテーションを行い子どもの望ましい行動を引き出してきた。その結果、授業態度も改善され、学級全			

③一人一人のつまずきやニーズに対応した支援の在り方を研究する。	③校内での定期的な支援委員会を開催し、学習や生活上のつまずきへの支援策を共通理解し、即座に実践に繋げる。	体の学力向上に繋がっている。 ③月に一度の支援委員会プチの開催により、個々の支援ニーズを確認し、共通理解を図って取り組むことができた。また、必要に応じてケース会議を行い、共通理解を図って学校全体での取組に繋がった。	A	くさんいることに驚いた。協力できることがあれば協力したい。	に機能しない児童もいる。特別支援教育相談課と連携し、コンサルテーションを受け、改善を目指す。
---------------------------------	--	--	---	-------------------------------	--

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価（達成度と実施状況）		
外国語・外国語活動の推進	①英語に慣れ親しみ教育を充実させる。	①外国語と外国の文化に親しむ活動を充実させるとともに、外国語教育の環境づくりに取り組む。	①「English Monday」には英語で挨拶を交わす取組を行った。また朝の放送の文言を英語で行うとともに放送で使う音楽を洋楽に変え、英語のリズム感や発音を体感することができた。	B	・様々な工夫により外国語学習が行われており感心した。実際の子どもの放送も素晴らしい。 ・日本文化等との比較については、これまで加茂小がCSで実践したことが使えるのではないかと思う。活動した写真や児童の話などのツールを活用するとよい。
	②日本文化と外国の文化について、両者の良さが理解できる教育を充実させ、多様性を受け入れることができるようにする。	②日本の伝統文化や習慣に親しむ機会をもつとともに、外国の文化や生活様式（あいさつ）の体験を行い、互いの文化を認め合う活動を進める。	②放課後子ども教室での和楽器の体験や阿波踊りを通して、日本文化や郷土の芸能に親しむことができた。異文化への交流はコロナ禍のためほとんど実施できていない。		
コミュニティ・スクール、幼小中連携、小中一貫教育	①学校運営協議会の充実と学校支援隊の活動の活性化を図る。	①学校の実情や児童の実態に応じた活動内容について検討し、実践する。	①実際には10月からの本格的な活動となった。また、1月以降は感染状況を見ながら活動を制限して行った。	B	・町内を含めCS活動は見直しが必要な時期ではないか。学校には不可欠な事業であるが、学校教育に必要な内容、教職員の業務支援とな
	②三加茂学園構想および連携カリキュラ	②幼、小、中はもちろん、首長部局をはじめ様々な関	②十分な連携はとれていないが、支援隊の方や社会福祉協		

<p>の推進</p>	<p>ムを生かした取り組みを積極的に進める。</p> <p>③業務改善を進め、子どもたちと向き合う時間や教材研究する時間を確保する。</p>	<p>係機関との連携を強化して地域全体で子どもを育む体制づくりを進める。</p> <p>③保護者、地域の方々の理解・協力を得ながら働き方改革について周知を図り、保護者アンケートの「働き方改革に関する項目」のそう思う、だいたいそう思う割合を90%以上に増やす。</p>	<p>議会、染香房などと連携を深め、子どもの学びを広げ深める工夫ができた。</p> <p>③「働き方改革に関する項目」では、取組を周知している割合はA評価B評価合わせて、81%であった。留守番電話の推進や定時退庁への呼びかけなど課題が残る。教職員アンケートでも達成率は78%にとどまっている。</p>	<p>B</p> <p>C</p>	<p>る活動が理想である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・超過勤務にならないように業務改善を行いながらも保護者が気軽に相談できる体制も整えてほしい。</li> <li>・校種間の交流を有効に活用し、子どもの自主性の育成に取り組んでほしい。</li> </ul>	<p>し、活動の整理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにとって有意義な活動に繋がる活動を教育課程と繋げて年間計画を作成する。</li> <li>・教職員への研修を行う。</li> </ul>
------------	--	---	--	-------------------	---	--